

イチゴ高設栽培におけるタネ浮き果の発生要因と対策技術

高設栽培(らくらくベンチ)におけるイチゴ‘さちのか’のタネ浮き果は、主に高温期に発生し、培地乾燥条件下で多くなる。また、標準のかん水管理では発生が少ない。

農業研究センター 農産園芸研究所野菜研究室 (担当者:本門 憲)

研究のねらい

本高設栽培システムを使った生産現場において、高温期にタネ浮き果が問題視されている。この障害果は土耕栽培でもみられるが、高設栽培で特に発生が目立つ傾向にある。そこで、タネ浮き果の発生要因について検討し、その発生対策技術を確立する。

研究の成果

1. タネ浮き果は瘦果が浮き出した果実で、大きい果実で発生が多い(図1、表1)。
2. 標準のかん水管理(週に3~4回程度)の場合、培地の体積含水率は50%程度である。また、高温期にかん水回数が不足すると培地が著しく乾燥する(図2、3)。
3. 培地が乾燥した場合にタネ浮き果の発生率が高い。標準のかん水管理でもタネ浮き果は発生するが、その頻度は少ない(表2、図4)。
4. 標準のかん水管理でタネ浮き果の発生は低減できる。

普及上の留意点

1. ‘さちのか’の高設栽培(らくらくベンチ)における結果である。
2. チューブの詰まり等による部分的な培地乾燥にも注意する。



図1 タネ浮き果

調査年度	正常果		タネ浮き果	
	果数	1果重(g)	果数	1果重(g)
H17	270	12.5	13	16.5
H18	1254	11.8	67	17.9

注)H17 :平成18年 4月19日 ~ 5月15日調査

H18 :平成19年 3月23日 ~ 5月14日調査

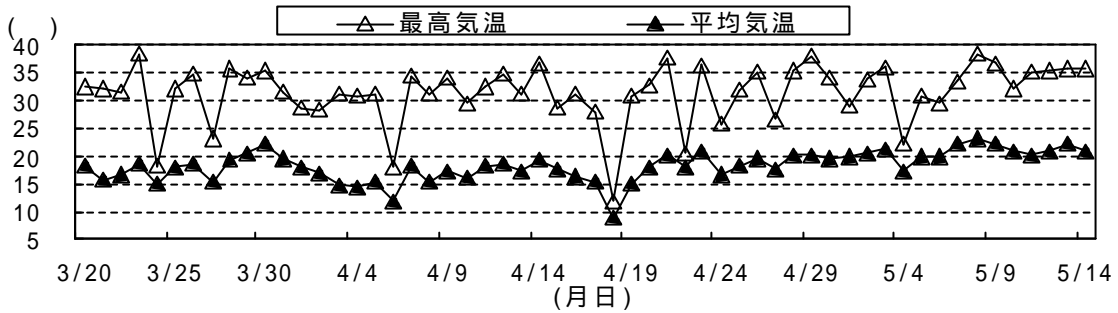


図2 ハウス内の気温推移
注)平成19年 3月20日 ~ 5月14日

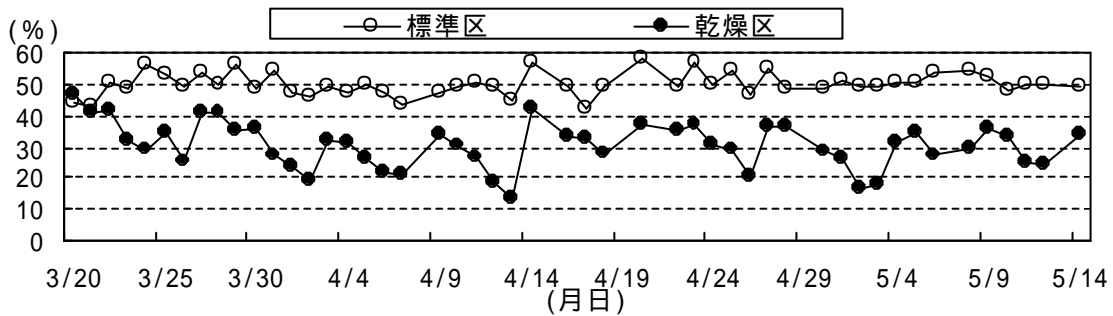


図3 培地体積含水率の推移
注)平成19年 3月20日 ~ 5月14日(12:00 ~ 15:00)調査
期間のかん水回数 標準区20回、乾燥区 8回

試験区	調査果数	タネ浮き果	
		果数	発生率(%)
標準	209	6	2.9
乾燥	148	18	12.2

注)平成19年 3月23日 ~ 5月14日調査

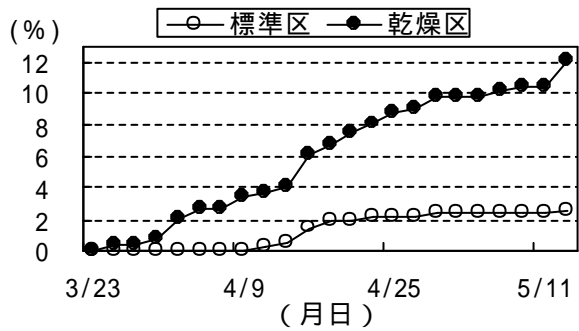


図4 タネ浮き果の累計発生率
注)平成19年 3月23日 ~ 5月14日調査